

2019/4/8版

衣笠 2019年度 法文系公務員講座

ベーシックコース アドバンストクラス(法律職) シラバス



エクステンションセンター

Syllabus

科目	人文科学
担当講師	永田 幸三
回数(コマ数)	9回(22コマ)
受講対象	ベーシックコース
必要な知識	初学者を対象
受講生の到達目標	各試験で70%の正答を目指す。

講義内容		
人文科学の範囲は非常に広いものです。高校までに学習した日本史・世界史・地理を中心に、有効に学習を進めるために、試験傾向を徹底的に分析し、点数が取れるよう本講義で説明します。		
回数	コマ	講義予定
1	1・2	【世界史】19世紀の世界情勢
2	3・4	【世界史】第一次世界大戦から戦後の世界
3	5・6	【日本史】明治時代
4	7・8	【日本史】大正時代から戦後の日本
5	9・10・11・12	【世界史】古代から中世、近世・近代
6	13・14・15・16	【日本史】古代から中世、江戸時代
7	17・18	【地理】地形・気候
8	19・20	【地理】農林水産業・工業・民族・人種・宗教
9	21・22	【地理】世界地誌

Syllabus

科目	自然科学
担当講師	平井 俊久
回数(コマ数)	8回(16コマ)
受講対象	ベーシックコース
必要な知識	初学者を対象
受講生の到達目標	各試験で70%の正答を目指す。

講義内容

自然科学の問題は、高校で学習した範囲が基本になっています。数学・物理・化学・生物・地学と5科目ありますが、ある水準の事項を理解していれば合格に必要な点数が取れます。文系出身の人は敬遠しがちな科目ですが、化学・生物・地学は基本的に暗記系の科目ですし、物理も知識のみで解ける問題が増えているので安心して下さい。

回数	コマ	講義予定
1	1・2	物理
2	3・4	物理
3	5・6	化学
4	7・8	化学
5	9・10	生物
6	11・12	生物
7	13・14	地学
8	15・16	地学

Syllabus

科目	数的処理
担当講師	平井 俊久
回数(コマ数)	26回(52コマ)
受講対象	ベーシックコース
必要な知識	初学者を対象
受講生の到達目標	国家一般職の試験を例とし、16問中11問以上の正答を目指す。

講義内容		
<p>数的処理は公務員試験に合格するためのカギとなる科目です。ジャンル・問題形式ごとのパターンを覚えていただき、基本的な解法をしっかりと身に付けていただきます。</p>		
回数	コマ	講義予定
1	1・2	<p>★入門講義</p> <p>【整数】</p> <p>1-1. 倍数と約数 1-2. N進法 1-3. 数列・規則性</p> <p>【方程式・不等式】</p> <p>2-1. 方程式・不等式 2-2. 不定方程式 2-3. 割合・比 2-4. 売買問題 2-5. 濃度計算</p>
2	3・4	<p>★入門講義</p> <p>【文章題】</p> <p>3-1. 速さ 3-2. 仕事算 3-3. 平均算</p> <p>【場合の数】</p> <p>【確立】</p> <p>【図形】</p>
3	5・6	<p>★入門講義</p> <p>【論理・命題】</p> <p>7-1. 記号化で解く命題の問題 7-2. ベン図で解く命題の問題</p> <p>【対応関係】</p> <p>8-1. 2集合の対応関係 8-2. 3集合の対応関係</p>
4	7・8	<p>★入門講義</p> <p>【順序関係】</p> <p>9-1. 順位的順序関係 9-2. 数量的順序関係</p> <p>【位置関係】</p> <p>10-1. 平面配置 10-2. 円卓 10-3. 方位</p>
5	9・10	<p>★入門講義</p> <p>【数量推理・操作手順】</p> <p>12-1. 数量推理 12-2. 操作手順</p> <p>【集合・その他】</p> <p>13-1. 集合 13-2. 暗号 13-3. 嘘つき</p>

Syllabus

6	11・12	【数的推理】方程式・不等式・文章題①
7	13・14	【数的推理】文章題②
8	15・16	【数的推理】整数の性質
9	17・18	【数的推理】場合の数と確率
10	19・20	【数的推理】図形
11	21・22	基本演習①
12	23・24	【判断推理】集合と論理
13	25・26	【判断推理】順序関係
14	27・28	【判断推理】位置関係・暗号
15	29・30	【判断推理】対応関係・試合
16	31・32	【判断推理】証言・その他
17	33・34	基本演習②
18	35・36	【空間把握】正多面体
19	37・38	【空間把握】投影図とスライス法
20	39・40	【空間把握】平面図形と位相
21	41・42	【資料解釈】選択肢の表現
22	43・44	【資料解釈】選択肢の読み取り①
23	45・46	【資料解釈】選択肢の読み取り②
24	47・48	基本演習③
25	49・50	基本演習④
26	51・52	基本演習⑤

Syllabus

科目	文章理解
担当講師	西尾 俊哉
回数(コマ数)	5回(10コマ)
受講対象	ベーシックコース
必要な知識	初学者を対象
受講生の到達目標	国家一般職の試験を例とし、11問中7問以上の正答を目指す。

講義内容

文章理解の攻略はとにもかくにも分析的に読めるかどうかがかぎを握っています。言い換えれば「コツ」をつかむ必要があるということです。課題文は単に読めればいいわけではありませんし、選択肢を絞るテクニックも重要になってきます。「読解」と「選択肢を絞る」という2つができてはじめて「文章理解」を得点源にすることができます。本講義でこうしたコツをお伝えします。

回数	コマ	講義予定
1	1・2	・現代文(趣旨把握問題)(内容合致問題)
2	3・4	・現代文(文章整序問題)(空欄補充問題) ・古文
3	5・6	・英文(趣旨把握問題)(内容合致問題)
4	7・8	・英文(その他の問題)(必要な文法知識)
5	9・10	・文章理解演習

Syllabus

科目	時事対策
担当講師	藤谷 浩史/與原 裕介
回数(コマ数)	3回(12コマ)
受講対象	ベーシックコース
必要な知識	初学者を対象
受講生の到達目標	経済事情、社会事情、国際事情の講義をし、最新の時事を把握する。 教養試験の社会科学でも出題され、専門試験の一部でも出題される。

講義内容		
ここで扱う内容は論文試験や集団討論でも頻出であり、面接試験でも知っておいた方がよい知識といえる。 公務員を目指す者であれば、全員受講していただきたい。		
回数	コマ	講義予定
1	1・2・3・4	・時事対策(経済史・経済事情)藤谷
2	5・6・7・8	・時事対策(社会事情)與原
3	9・10・11・12	・時事対策(社会事情2コマ・国際事情2コマ)與原

Syllabus

科目	論文対策
担当講師	野間 かおり
回数(コマ数)	4回(8コマ)
受講対象	ベーシックコース
必要な知識	初学者を対象
受講生の到達目標	合格レベルの答案を作成できるようにする。

講義内容

論文はほぼ全ての公務員試験で課され、限られた時間内でルールを守り自分の考えをまとめた文章を書くことが求められており、近年重要度が増しています。

原稿用紙の使い方などの基本事項の確認から、採点時に評価されるポイント、論文を書くにあたって必要な知識までを網羅して説明します。

講義内でも実際に答案を作成する時間を設けますし、添削も行います。

回数	コマ	講義予定
1	1・2	・出題傾向 ・答案の一般的な書き方 ・テーマ別論文課題の捉え方
2	3・4	・情報 ・データの集め方 ・テーマ別論文課題の捉え方
3	5・6	・テーマ別論文課題の捉え方 ・市役所論作文の技法
4	7・8	・【直前対策】データの確認・予想問題文章構成練習と解説

Syllabus

科目	社会科学
担当講師	【web】黒田/山本/小沼/瀬田
回数(コマ数)	20回(40コマ)
受講対象	ベーシックコース
必要な知識	初学者を対象
受講生の到達目標	全ての試験において基礎能力試験社会科学分野において、8割以上の得点を目指す。

講義内容		
<p>教養科目における社会科学は、実施に出題された問題を見てみると、生半可な知識では解けない、専門分野の政治学や経済学、社会学といった科目と同じような内容のものも多く、甘く見ていると痛い目にあう事になります。ただ、根底にあるのは、高校で学習する政治・経済、倫理・社会です。必要以上に恐れる事ありません。社会科学という非常に広範な科目について、公務員試験の問題に対応できるように講義を行っていきます。</p>		
回数	コマ	講義予定
1	1・2	【法律】・法とは何か ・法の適用 ・日本国憲法の基本原理 ・日本国憲法と人権
2	3・4	【法律】・日本国憲法と人権
3	5・6	【法律】・日本国憲法と人権 ・日本の統治機構
4	7・8	【法律】・日本の統治機構 ・日本の地方自治
5	9・10	【法律】・行政法 ・民法 ・刑法
6	11・12	【政治】・政治学概論 ・政治制度論
7	13・14	【政治】・選挙制度論 ・政治過程論
8	15・16	【政治】・政治思想史
9	17・18	【政治】・行政学概論
10	19・20	【政治】・国際関係論概論
11	21・22	社会科学 演習
12	23・24	【経済】ミクロ経済学 ・無差別曲線 ・予算制約線 ・効用最大化 ・さまざまな無差別曲線
13	25・26	【経済】ミクロ経済学 ・需要曲線と供給曲線 ・需要の所得弾力性と価格弾力性 ・市場の失敗 ・リカードの比較生産費説
14	27・28	【経済】マクロ経済学 ・国民経済計算 ・国際収支統計
15	29・30	【経済】マクロ経済学 ・消費関数 ・総需要と総供給 ・投資関数 ・IS曲線
16	31・32	【経済】マクロ経済学 ・貨幣供給理論 ・金融政策 ・貨幣需要理論 ・LM曲線・IS-LM分析 ・古典派とケインジアン 財政学 ・財政理論 ・予算制度 ・租税 ・国債
17	33・34	社会科学 演習
18	35・36	【社会】労働問題
19	37・38	【社会】・社会保障 ・現代社会の諸問題
20	39・40	社会科学 演習

Syllabus

科目	憲法
担当講師	郷原 豊茂
回数(コマ数)	12回(26コマ)
受講対象	ベーシックコース
必要な知識	初学者を対象
受講生の到達目標	国家一般職の試験を例とし、5問中4問以上の正答を目指す。

講義内容		
<p>憲法全体を通して、憲法の基礎にある考え方を覚えておけば、他の法律科目においてもさらに理解が深まり知識が定着します。上位合格レベルの知識を身につけていただきます。</p>		
回数	コマ	講義予定
1	1・2・3・4	<ul style="list-style-type: none"> ・憲法の基本原理 ・憲法の分類 ・基本的人権の原理 ・基本的人権の限界①(公共の福祉・二重の基準) ・基本的人権の限界(特別権力関係・私人間効力) ・幸福追求権 ・法の下での平等
2	5・6	<ul style="list-style-type: none"> ・思想良心の自由 ・信教の自由 ・学問の自由 ・表現の自由①
3	7・8	<ul style="list-style-type: none"> ・表現の自由② ・職業選択の自由
4	9・10	<ul style="list-style-type: none"> ・財産権 ・生存権 ・教育を受ける権利
5	11・12	<ul style="list-style-type: none"> ・労働基本権 ・受益権・適正手続保障・その他の刑事手続上の権利
6	13・14	<ul style="list-style-type: none"> ・憲法演習
7	15・16	<ul style="list-style-type: none"> ・統治総論 ・国会の地位
8	17・18	<ul style="list-style-type: none"> ・組織・活動・・国会の権能と議院の権能
9	19・20	<ul style="list-style-type: none"> ・内閣 ・司法権 ・裁判所の構成と権限・地方自治 ・天皇その他
10	21・22	<ul style="list-style-type: none"> ・憲法演習 応用講義
11	23・24	<ul style="list-style-type: none"> ・応用講義 憲法演習
12	25・26	<ul style="list-style-type: none"> ・記述対策

Syllabus

科目	民法
担当講師	郷原 豊茂
回数(コマ数)	18回(36コマ)
受講対象	ベーシックコース
必要な知識	初学者を対象
受講生の到達目標	国家一般職の試験を例とし、10問中7問以上の正答を目指す。

講義内容		
総則・物権・担保物件・債権総論・債権各論・家族法と範囲が膨大なために、多くの受験生が苦手意識をもっていますが、本講義では理解しやすく記憶もしやすいように説明します。		
回数	コマ	講義予定
1	1・2	【総則】・民法の全体 ・権利の主体
2	3・4	・法律行為 (1) ・法律行為 (2)
3	5・6	・代理 ・法人
4	7・8	・時効 ・所有権
5	9・10	・占有権 ・用益物権
6	11・12	・物権変動 ・即時取得
7	13・14	・担保物権の性質 ・抵当権
8	15・16	・民法演習1
9	17・18	・債務不履行
10	19・20	・債務者の責任財産の維持 ・債権の消滅
11	21・22	・多数当事者間の債権関係 ・債権譲渡
12	23・24	・債務引受 ・契約総論 ・契約各論
13	25・26	・その他の契約 ・事務管理 ・不当利得
14	27・28	・不法行為 ・婚姻
15	29・30	・親子・相続
16	31・32	・民法演習2
17	33・34	・応用講義
18	35・36	・記述対策

Syllabus

科目	行政法
担当講師	北村 祐人
回数(コマ数)	13回(26コマ)
受講対象	ベーシックコース
必要な知識	憲法・民法で学習する基本的な知識
受講生の到達目標	各種公務員試験において行政法を得点源にするための必要な知識を身に付け、過去問演習によりその定着を図る。

講義内容		
<p>行政法では、基本的な問題から、法改正や新判例の知識を問う応用的な問題まで、様々なタイプの問題が出題されますが、毎年のように出題される「必ず押さえておくべき重要な知識」(判例・条文・理論)が存在します。頻出の分野にウェイトを置き、近年の出題傾向に沿った内容の講義を行いたいと考えています。また、本試験までの自学自習に役立つ補助教材も提供します。</p>		
回数	コマ	講義予定
1	1・2	講義 法律による行政の原理 法の一般原則 行政法と私法
2	3・4	講義 行政組織 法規命令・行政規則 行政行為の意義
3	5・6	講義 行政行為の効力 行政行為の瑕疵 職権取消・撤回
4	7・8	講義 行政裁量 行政行為の附款 行政上の強制執行
5	9・10	講義 即時強制 行政上の制裁 行政調査 行政計画 行政契約
6	11・12	講義 行政指導 行政手続
7	13・14	講義 行政不服申立て 行政事件訴訟①
8	15・16	講義 行政事件訴訟②
9	17・18	講義 行政事件訴訟③ 国家賠償①
10	19・20	講義 国家賠償② 損失補償 情報公開
11	21・22	応用講義 各分野のやや発展的な内容 地方自治 公物
12	23・24	演習 行政法総論・行政作用法
13	25・26	演習 行政救済法

Syllabus

科目	ミクロ経済学
担当講師	藤谷 浩史
回数(コマ数)	15回(30コマ)
受講対象	ベーシックコース
必要な知識	初学者を対象
受講生の到達目標	国家一般職の試験を例とし、5問中3問以上の正答を目指す。

講義内容

ミクロ経済学は重要科目の一つです。経済学的発想法と基本的な概念を身に付け、問題演習も行います。パターン化された「公式」や「解法」をお伝えします。また高度な数学を用いるのを最低限に控え、前提知識の水準を中学3年から高校1年に行っていますので、数学の苦手な人でも安心してください。

回数	コマ	講義予定
1	1・2	・費用関数 ・平均費用,平均可変費用,限界費用
2	3・4	・利潤最大化 ・損益分岐点, 操業停止点 ・供給関数 ・供給の価格弾力性 ・課税の効果
3	5・6	・生産関数と利潤最大化 ・要素生産関数 ・効用と無差別曲線
4	7・8	・予算制約 ・効用最大化問題 ・需要関数
5	9・10	・需要の所得弾力性 ・需要の価格弾力性 ・需要の交差弾力性
6	11・12	・所得効果と代替効果 ・最適労働供給・異時点間の資源配分 ・リスク・顕示選好の理論
7	13・14	・ミクロ経済学演習
8	15・16	・市場均衡 ・市場の調整過程・産業の長期均衡 ・余剰分析
9	17・18	・エッジワース・ボックス ・独占 ・売上高最大化モデル
10	19・20	・差別価格モデル ・寡占理論 ・複占モデル
11	21・22	・寡占理論 ・屈折需要曲線 ・独占的競争
12	23・24	・ゲームの理論 ・市場の失敗 ・外部効果
13	25・26	・情報の非対称性 ・自由貿易と経済政策 ・比較優位の原理
14	27・28	・ミクロ経済学演習
15	29・30	・応用講義

Syllabus

科目	マクロ経済学
担当講師	藤谷 浩史
回数(コマ数)	9回(30コマ)
受講対象	ベーシックコース
必要な知識	初学者を対象
受講生の到達目標	国家一般職の試験を例とし、5問中3問以上の正答を目指す。

講義内容		
<p>マクロ経済学は重要科目の一つです。経済学的発想法と基本的な概念を身に付け、問題演習も行います。経済原理と実際の経済との関係に注意をしながら学習し、理論を覚えるだけでなく、その背後にあるストーリーを語る事ができるように説明します。</p>		
回数	コマ	講義予定
1	1・2・3・4	<ul style="list-style-type: none"> ・GDP, NDP, GNI ・国民所得統計と三面等価の原則 ・国際収支統計 ・物価指数とGDPデフレーター ・消費関数と貯蓄関数産業連関表 ・45度線分析 ・乗数理論 ・インフレギャップとデフレギャップ
2	5・6	<ul style="list-style-type: none"> ・45度線分析Ⅱ・LM曲線
3	7・8・9・10	<ul style="list-style-type: none"> ・債権価格 ・信用創造 ・貨幣需要と貨幣供給 ・IS-LM分析 ・IS-LM分析 ・財政金融政策の効果
4	11・12・13・14	<ul style="list-style-type: none"> ・総需要曲線 ・労働市場分析 ・マクロ経済学演習
5	15・16・17・18	<ul style="list-style-type: none"> ・総供給曲線 ・AD-AS分析 ・フィリップス曲線 ・IAD-IAS分析 ・マネタリストモデル ・合理的期待形成モデル ・貨幣理論
6	19・20・21・22	<ul style="list-style-type: none"> ・消費理論 ・投資理論 ・国際収支と為替レート ・開放経済版45度分析 ・マンデル=フレミングモデル ・ポリシーミックス・成長会計方程式
7	23・24・25・26	<ul style="list-style-type: none"> ・ハロッド=ドーマーモデル ・新古典派経済成長論 ・景気循環論 ・マクロ経済学演習
8	27・28	応用講義
9	29・30	記述対策

Syllabus

科目	財政学
担当講師	藤谷 浩史
回数(コマ数)	4回(14コマ)
受講対象	ベーシックコース
必要な知識	ミクロ経済学・マクロ経済学の受講者
受講生の到達目標	国家一般職の試験を例とし、5問中3問以上の正答を目指す。

講義内容

経済学とは一味違い、制度・学說的等の知識を入れなくてははいけません。ミクロ経済学・マクロ経済学の内容を重複する部分があるので、新規に学ぶことは3分の2程度ですむ取り組みやすい科目でもあります。また時事テーマを扱うので、経済事情・社会政策等ともリンクします。

回数	コマ	講義予定
1	1・2	・予算制度 ・一般会計予算
2	3・4・5・6	・一般会計予算 ・国債 ・財政投融资 ・国庫金制度 ・財政に関する議論
3	7・8・9・10	・租税原則 ・租税体系 ・国の税制 ・課税理論 ・税制改正案の概要(国税) ・地方財政の制度 ・地方財政計画
4	11・12・13・14	・地方財政決算 ・地方の税制 ・公共財 ・所得再分配政策 ・財政学演習

Syllabus

科目	政治学
担当講師	永田 幸三
回数(コマ数)	10回(20コマ)
受講対象	ベーシックコース
必要な知識	初学者を対象
受講生の到達目標	国家一般職の試験を例とし、5問中3問以上の正答を目指す。

講義内容

政治系全体の基礎をつくる科目となります。公的な問題に望んで社会的公正や正義を実現するために、政治学は深く学習すべき科目です。本講義では単なる暗記学習にとどまることなく、問題演習も行い、政治制度や政治理論の深い理解も身に付けていただきます。

回数	コマ	講義予定
1	1・2	・政治学の基礎 ・政治史(欧米史編)
2	3・4	・政治史(日本史編) ・議会 ・議院内閣制 ・大統領制
3	5・6	・各国の政治制度 ・選挙
4	7・8	・政治体制と政治変動 ・政党 ・圧力団体
5	9・10	・マスメディアと政治 ・政治意識と投票行動 ・古代～近代までの政治思想 ・社会契約説
6	11・12	・市民社会と自由主義 ・社会主義 ・全体主義 ・民主主義
7	13・14	・大衆社会論 ・現代政治学 ・国家と権力の理論
8	15・16	・政治学演習
9	17・18	・記述対策
10	19・20	・応用講義

Syllabus

科目	行政学
担当講師	永田 幸三
回数(コマ数)	7回(14コマ)
受講対象	ベーシックコース
必要な知識	初学者を対象
受講生の到達目標	国家一般職の試験を例とし、5問中3問以上の正答を目指す。

講義内容

行政学の出題範囲はかなり限定されており、確実な知識さえ身につけておけば安定した得点源となりうる科目です。この講義で効率よく応用の効く知識を身につけていただきます。

回数	コマ	講義予定
1	1・2	・行政学の基礎概念 ・欧州行政史, 行政学史概論 ・ウェーバーの官僚制論への批判
2	3・4	・米国行政史 ・行政学史概論 ・米国行政組織論の系譜 ・能率の概念
3	5・6	・行政組織設計論(概論) ・日本の行政組織 ・公務員人事制度論
4	7・8	・行政管理論 ・行政改革論 ・政策過程の理論
5	9・10	・日本の政策過程の実際 ・行政統制 ・行政責任論 ・行政参加論
6	11・12	・中央地方関係 ・日本の地方自治
7	13・14	・応用講義

Syllabus

科目	刑法
担当講師	郷原 豊茂
回数(コマ数)	5回(10コマ)
受講対象	ベーシックコース
必要な知識	初学者を対象
受講生の到達目標	地方上級試験(全国型)を例とし、満点を目指す。

講義内容

総論各論の体系講義を行う。裁判所一般職試験を受ける者は、この講義と裁判所一般職対策講義を受講する事。

回数	コマ	講義予定
1	1・2	・刑法の基礎理念 ・犯罪論総説 ・構成要件該当性
2	3・4	・違法性 ・責任
3	5・6	・未遂罪 ・共犯
4	7・8	・罪数論及び刑罰の適用 ・総説
5	9・10	・生命, 身体に対する罪 ・自由に対する罪

Syllabus

科目	労働法
担当講師	井村 浩史
回数(コマ数)	4回(8コマ)
受講対象	ベーシックコース
必要な知識	初学者を対象
受講生の到達目標	地方上級試験(全国型)を例とし、満点を目指す。尚、労働基準監督官を目指す方は、必ず受講して下さい。

講義内容

労働法は、個別的労働関係と団体的労働関係を規律する法律です。公務員試験で問われているのは、重要な条文と重要な判例の理解です。覚える量は多くなく、効率的に点数が取れるように説明します。

回数	コマ	講義予定
1	1・2	・労働法の意義 ・労働基準法の一般原則 ・労働契約の成立と労働条件の決定
2	3・4	・就業規則 ・賃金 ・労働時間, 休日, 休憩, 年次有給休暇 ・労働関係の展開 ・労働契約の終了
3	5・6	・年少者, 女性, 非典型雇用 ・労働組合 ・団体交渉 ・労働協約
4	7・8	・争議行為 ・不当労働行為 ・労働委員会等

Syllabus

科目	国際関係
担当講師	永田 幸三
回数(コマ数)	5回(12コマ)
受講対象	ベーシックコース
必要な知識	初学者を対象
受講生の到達目標	国家一般職の試験を例とし、5問中3問以上の正答を目指す。

講義内容

「国際関係」という科目は、国際という語が示すとおり、諸国家・諸民族に関することであり、内容は非常に多岐にわたりますし、莫大な量を学習するよう見えます。しかしながら公務員試験に関しては、このうちの1部を学習するに過ぎませんので、まずは歴史的な動きをベースに世界を追っていきながら、各々の事件や事柄を理解します。単なる暗記では対処できない背景説明や関連する問題も説明します。

回数	コマ	講義予定
1	1・2	・国際関係の基礎概念 ・近代国際関係の誕生 ・二つの世界大戦 ・冷戦の始まりと崩壊
2	3・4	・日本外交史 ・国際通貨体制と自由貿易体制 ・南北問題 ・国際連盟と国際連合 ・地域的国際機関
3	5・6	・国際通貨体制と自由貿易体制 ・南北問題
4	7・8・9・10	・国際連盟と国際連合 ・地域的国際機関 ・国際法概論 ・国際法と諸問題 ・近年の国際紛争
5	11・12	・応用講義

Syllabus

科目	社会政策
担当講師	野間 かおり
回数(コマ数)	5回(10コマ)
受講対象	ベーシックコース
必要な知識	初学者を対象
受講生の到達目標	各試験で70%の正答を目指す。

講義内容

社会政策は社会学の一分野で、社会学の中に含まれて出題されることもあれば、試験種によっては独立科目として扱われることがあります。また、政治学や行政学とも深いつながりを持ちます。内容としては、労働問題、福祉政策、格差問題、少子化問題などとそれら問題に対して打ち出されている政策を言います。出題傾向の分析と、労働経済・社会保障の最新の動向を説明します。論文試験の元ネタになる科目でもあるので論文対策としても強くお勧めします。

回数	コマ	講義予定
1	1・2	・社会政策の概要 ・失業 ・雇用
2	3・4	・賃金 ・労働時間 ・労働政策の歴史と労使関係
3	5・6	・社会保障の歴史 ・公的扶助 ・社会福祉
4	7・8	・人口動態① ・少子化対策 ・年金保険
5	9・10	・人口動態② ・医療保険と介護保険 ・雇用保険と労災保険

Syllabus

科目	経営学
担当講師	中原 香織
回数(コマ数)	3回(12コマ)
受講対象	ベーシックコース
必要な知識	初学者を対象
受講生の到達目標	国家一般職の試験を例とし、5問中3問以上の正答を目指す。

講義内容

公務員の業務は企業と関係するものも多く、公務員には企業経営に関する理解が求められています。経営学は広範な領域にまたがる学問であり、その全てを習得するのは困難といえますが、過去の出題傾向を徹底的に検討すると、その出題範囲はかなり限定されており、一般的に基本的事項の理解を問う問題がほとんどです。本講義では短時間で効率よく点数が取れる講義を実施します。

回数	コマ	講義予定
1	1・2・3・4	・経営学の基礎概念 ・企業論 ・伝統的管理論と人間関係論 ・行動科学的モチベーション論 ・近代組織論 ・経営組織の基本構造と形態 ・その他の経営組織の形態 ・組織設計の理論
2	5・6・7・8	・経営戦略総論・企業戦略 ・多角化戦略 ・競争戦略 ・その他の経営戦略論 ・国際経営論 ・日本的経営論 ・リーダーシップ論 ・経営計画と統制
3	9・10・11・12	・財務管理論 ・マーケティング論 ・応用講義

Syllabus

科目	社会学
担当講師	野間 かおり
回数(コマ数)	6回(12コマ)
受講対象	ベーシックコース
必要な知識	初学者を対象
受講生の到達目標	国家一般職の試験を例とし、5問中3問以上の正答を目指す。

講義内容

社会学は日常語と同じでありながら特有の意味が込められた言葉や、耳慣れない用語が多数存在します。政治系全体の基礎をつくる科目となりますし、行政学や国際関係、社会政策を理解するためにも必要になってきます。学習の手順がカギとなる科目ですので本講義で効率よく学びましょう。

回数	コマ	講義予定
1	1・2	・社会学とは ・傾向と対策 ・社会学の成立 ・社会学の展開(1)
2	3・4	・社会学の展開(2) ・機能主義社会学
3	5・6	・現代の社会学 ・文化の定義と諸類型 ・イデオロギー論
4	7・8	・階級, 階層と社会変動論 ・社会集団とコミュニケーションの諸理論
5	9・10	・家族と性の社会学 ・都市と地域の社会学 ・社会調査法
6	11・12	・応用講義

Syllabus

科目	商法
担当講師	【web】 吉原 誠
回数(コマ数)	4回(8コマ)
受講対象	ベーシックコース
必要な知識	初学者を対象
受講生の到達目標	国税専門官の試験を例とし、2問満点を目指す。

講義内容

会社法、手形・小切手法と学習すべき範囲が広く、その専門性・技術性ゆえに初学者にとって学習が容易ではないですが、本試験は基本的知識を端的に問う問題がほとんどです。効率的に点数が取れるように進めていきます。

回数	コマ	講義予定
1	1・2	・会社法【全体像,会社の意義・種類,機関(株主総会～取締役会)】
2	3・4	・会社法【機関(代表取締役～取締役の責任・義務),会社法,株式資本(計算)】
3	5・6	・会社法【会社の設立,組織変更・組織再編,商号,使用人,商業登記】 ・手形法【手形の意義・成立要件】
4	7・8	・手形法【他人による手形行為 ・手形行為の振出・裏書】

Syllabus

科目	労働基準監督官対策講義
担当講師	【web】 勾坂/瀬田
回数(コマ数)	6回(12コマ)
受講対象	ベーシックコース
必要な知識	労働法、社会政策の講義を受講している事
受講生の到達目標	労働基準監督官 労働法・労働事情共に記述式論文を合格レベルにする。労働法は7問中5問の正答、労働事情5問中3問以上の正答を目指す。

講義内容		
労働基準法・労働契約法・労働組合法は、労働法の講義で大丈夫。労働安全衛生法について、補足として主要なポイントを講義する。最低賃金法、パートタイム労働法、労働者災害補償保険法などの特別法を少々触れる。そして、答案作成のポイントを踏まえて講義する。労働事情編では、労働事情に関するトレンドを感覚として体得するようにしておけばよい。最新版の労働経済白書には目を通すことが望ましいが、ポイントを踏まえたテキストをふまえて講義をする。		
回数	コマ	講義予定
1	1・2	・労働法
2	3・4	・労働法
3	5・6	・労働法
4	7・8	・労働法
5	9・10	・労働事情
6	11・12	・労働事情

Syllabus

科目	裁判所一般職対策講義
担当講師	【web】 富田
回数(コマ数)	4回(8コマ)
受講対象	ベーシックコース
必要な知識	基本講義 憲法・民法・刑法を受講している事
受講生の到達目標	裁判所一般職試験の上位合格を目指す

講義内容

裁判所一般職試験をターゲットに、過去の出題傾向を分析した講義を行う。
本対策講義は刑法がメインとなります。
民法、刑法は必ず通常の講義を受講した後に受講して下さい。

回数	コマ	講義予定
1	1・2	【刑法】 総論・各論
2	3・4	【刑法】 財産犯全般
3	5・6	【刑法】 社会的法益・国家的法益 【民法】 民法前半のポイント整理 (総則・物権)
4	7・8	【民法】 民法後半のポイント整理 (債権法全般) 【憲法】 憲法記述 予想テーマ

Syllabus

科目	会計学
担当講師	【web】伊東
回数(コマ数)	11回(22コマ)
受講対象	ベーシックコース
必要な知識	日商簿記3級程度の知識があることが望ましい
受講生の到達目標	国税専門官の試験を例とし、8問中5問以上の正答を目指す。

講義内容

会計学は範囲が膨大ですが、毎年のように出題されている分野もあり、基本的な部分をマスターしていくほうが高得点を望めます。講義では効率的に得点がとれるものを目指し、問題演習も行います。本試験では会計学というよりも簿記の範囲の問題（計算問題・仕訳問題）が出題される事もあるため、日商簿記3級程度の知識があると望ましい。

回数	コマ	講義予定
1	1・2	・会計学の基礎 ・財務諸表の基礎 ・一般原則(正規の簿記の原則～重要性の原則まで)
2	3・4	・資産会計総論 ・金融資産
3	5・6	・棚卸資産 ・有形固定資産
4	7・8	・無形固定資産 ・繰延資産 ・負債
5	9・10	・資本 ・損益会計の基礎
6	11・12	・収益会計 ・費用会計
7	13・14	・損益計算書 ・貸借対照表
8	15・16	・連結会計
9	17・18	・企業結合 ・外貨換算会計
10	19・20	・税効果会計 ・仕訳
11	21・22	・会計学演習

Syllabus

科目	官庁訪問対策講義
担当講師	郷原 豊茂
回数(コマ数)	1回(1コマ)
受講対象	ベーシックコース
必要な知識	特になし
受講生の到達目標	国家公務員一般職の官庁訪問において、内定を目指す

講義内容		
国家公務員採用一般職試験第1次試験合格者等対象の官庁訪問について、情報を提供する。これまでの受講生からのヒアリングによって得た各官庁訪問の雰囲気や対策等、具体的な行動をイメージできるように説明する。尚、行政近畿として話をする。		
回数	コマ	講義予定
1	1	官庁訪問対策

Syllabus

科目	数的処理 応用
担当講師	平井 俊久
回数(コマ数)	3回(6コマ)
受講対象	アドバンストクラス (法律職)
必要な知識	数的処理を受講した者
受講生の到達目標	16問中13点以上の得点を狙う

講義内容

重要な問題をピックアップした過去の本試験問題を1問ずつ解答してもらい、その都度解説する。最後まで粘り、解法テクニックを掴んでいただきたい。

回数	コマ	講義予定
1	1・2	国家総合職本試験問題
2	3・4	国家総合職本試験問題
3	5・6	国家総合職本試験問題

Syllabus

科目	文章理解 応用
担当講師	西尾 俊哉
回数(コマ数)	2回(4コマ)
受講対象	アドバンストクラス (法律職)
必要な知識	文章理解を受講した者
受講生の到達目標	文章理解英語出題 7問中5点以上の得点を狙う

講義内容

文章理解の内、英語のみを扱う。問題パターンである内容一致問題、整序問題、空欄補充問題について、ピックアップした問題を解答していただき、その都度解説する。最後まで粘り、解法テクニックを掴んでいただきたい。

回数	コマ	講義予定
1	1・2	オリジナル問題および本試験過去問題
2	3・4	オリジナル問題および本試験過去問題

Syllabus

科目	憲法 応用
担当講師	郷原 豊茂
回数(コマ数)	5回(12コマ)
受講対象	アドバンストクラス (法律職)
必要な知識	憲法の講義受講者または同等レベルの知識
受講生の到達目標	国家総合職(法律区分)の試験を例とし、7問中6問以上の正答を目指す。

講義内容

応用論点について詳細に説明する。人権分野については基本判例、統治分野については条文を確実に押えて、学説間の対立も含めて学習すること。

回数	コマ	講義予定
1	1・2	・総論
2	3・4・5・6	・基本的人権 ・統治機構 ・応用演習①
3	7・8	・応用演習②
4	9・10	・総まとめ
5	11・12	・総まとめ

Syllabus

科目	憲法応用記述対策
担当講師	郷原 豊茂
回数(コマ数)	3回(8コマ)
受講対象	アドバンストクラス (法律職)
必要な知識	憲法の講義受講者または同等レベルの知識
受講生の到達目標	専門試験(記述式)の配点比率が大きい。合格レベルの答案を目指す。

講義内容

論文試験の分析の仕方と答案の書き方のポイントをつかんでいただく。本試験の過去問も見る。解答のポイントを説明しながら、模範答案をイメージさせる。実施に答案も書いていただき、添削も行う。
高い合格レベルの答案を目指す。

回数	コマ	講義予定
1	1・2・3	・人権享有主体性 ・包括的基本権と平等原則 ・精神的自由 ・経済的自由
2	4・5・6	・社会権 ・人身の自由 ・国家 ・内閣・司法
3	7・8	・財政 ・地方自治

Syllabus

科目	民法 応用
担当講師	郷原 豊茂
回数(コマ数)	8回(16コマ)
受講対象	アドバンストクラス (法律職)
必要な知識	民法の講義受講者または同等レベルの知識
受講生の到達目標	国家総合職(法律区分)の試験を例とし、12問中10問以上の正答を目指す。

講義内容

応用論点について詳細に説明する。比較的難易度が高く、合否を大きく左右する最重要科目である。条文を整理し、民法全体の構造を理解し、判例の趣旨をきちんと抑えること。

回数	コマ	講義予定
1	1・2	・総論
2	3・4	・債権総論
3	5・6	・債権各論
4	7・8	・応用演習
5	9・10	・応用演習
6	11・12	・応用演習
7	13・14	・総まとめ講義
8	15・16	・総まとめ講義

Syllabus

科目	行政法応用
担当講師	北村 祐人
回数(コマ数)	8回(16コマ)
受講対象	アドバンストクラス (法律職)
必要な知識	行政法講義で学習した内容
受講生の到達目標	国家総合職試験レベルの問題にも対応できるよりハイレベルの知識を身に付ける。

講義内容

近年は、国家総合職試験だけでなく、国家一般職試験やその他の試験の出題問題も難化傾向にあり、基礎的な知識を習得しただけでは高得点を挙げるのが難しくなっています。そこで、国家総合職・一般職試験等の出題問題の中からやや難易度が高めの良問を取り上げて演習・解説を行い、難化傾向に対応できる実力を身に付けることを目標とします。さらに、新判例や法改正の知識を取り入れた出題予想問題を作成し、その演習を行って頂くことにより、本試験に備えた万全の対策を講じます。

回数	コマ	講義予定
1	1・2	記述対策 東京都・国家総合職試験等の出題問題の解説
2	3・4	演習講義 行政法総論・行政組織法・行政作用法①
3	5・6	演習講義 行政作用法②
4	7・8	演習講義 行政救済法①
5	9・10	演習講義 行政救済法②
6	11・12	演習講義 行政救済法③・その他
7	13・14	演習 全範囲 (出題予想問題の演習・解説)
8	15・16	演習 全範囲 (出題予想問題の演習・解説)

Syllabus

科目	刑法 応用
担当講師	郷原 豊茂
回数(コマ数)	3回(6コマ)
受講対象	アドバンストクラス (法律職)
必要な知識	民法の講義受講者または同等レベルの知識
受講生の到達目標	国家総合職(法律区分)3問中満点の正答を目指す。

講義内容

応用論点について詳細に説明する。判例のみで解ける問題も多いので、判例問題を重点的に勉強すること。

回数	コマ	講義予定
1	1・2	・因果関係論 ・正当防衛 ・緊急避難 ・具体的事実の錯誤 ・抽象的事実の錯誤
2	3・4	・違法性の意識 ・不能犯 ・共犯 ・個人的法益に対する罪
3	5・6	・社会的法益に対する罪 ・国家的法益に対する罪

Syllabus

科目	労働法 応用
担当講師	井村 浩史
回数(コマ数)	2回(6コマ)
受講対象	アドバンストクラス (法律職)
必要な知識	労働法の講義受講者または同等レベルの知識
受講生の到達目標	国家総合職(法律区分)3問中満点の正答を目指す。

講義内容		
応用論点について詳細に説明する。重要判例をしっかりと覚えていくことが大切です。覚える量や出題される判例の数が少ないため、得点限にすること。		
回数	コマ	講義予定
1	1・2・3・4	・労働基準法 ・労働組合法 ・労働契約法
2	5・6	・労働組合法以外の分野

Syllabus

科目	商法 応用
担当講師	井村 浩史
回数(コマ数)	2回(4コマ)
受講対象	アドバンストクラス (法律職)
必要な知識	商法の講義受講者または同等レベルの知識
受講生の到達目標	国家総合職(法律区分)3問中満点の正答を目指す。

講義内容		
応用論点について詳細に説明する。 出題範囲に偏りがあるので、出題頻度の高い分野を中心に扱う。小切手法は民法的思考が必要なので、得意・不得意が分かります。		
回数	コマ	講義予定
1	1・2	・出題傾向対策 ・会社法
2	3・4	・手形法 ・商行為

Syllabus

科目	国際法(DVD)
担当講師	杉原 龍太
回数(コマ数)	14回(27コマ)
受講対象	アドバンストクラス (法律職)
必要な知識	特になし
受講生の到達目標	国家総合職(法律区分)3問(政治国際区分)5問、いずれも満点を目指す。

講義内容

国際法は、国際社会の共通語として全ての省庁が携わっています。
長年の国家総合職試験の分析で培われてきた情報の蓄積を元に、本試験で満点を目指すことも十分可能となるように講義いたします。

回数	コマ	講義予定
1	1・2	国際法の法源,国際法と国内法の関係
2	3・4	国際法の主体,承認
3	5・6	承継,国家の基本権,国家管轄権
4	7・8	国家領域
5	9・10	海洋法
6	11・12	国際公域,国際化地域
7	13・14	私人
8	15・16	国際経済法
9	17・18	外交領事関係法
10	19・20	条約法,国家の国際責任
11	21・22	紛争の平和的解決
12	23・24	武力紛争の規制
13	25	応用演習①
14	26・27	総まとめ講義

Syllabus

科目	政策立案講義
担当講師	近藤 秀臣
回数(コマ数)	5回(12コマ)
受講対象	アドバンスクラス(法律職)
必要な知識	特になし(中学校「公民」及び高等学校「現代社会」「政治・経済」もしくは「倫理」のうち1科目以上の基礎知識があればより望ましい)
受講生の到達目標	最終段階において、各種公務員試験における「小論文」及び「面接」「集団討論」、特に国家総合職試験「政策論文」及び「政策課題討議」、さらには「官庁訪問」等において高評価を獲得しうるような政策的思考力の基礎を涵養する。

講義内容

「政策」—「よくコトバは耳にするけど、何かつかみどころがないよね…」「何だかよくわからないうちにどこかで決められて、押し付けられてる感じってあるよね…」etc.「政策」という存在は、どこか、日常生活からかけ離れた、それでいてしっかりと取り囲まれている何だか奇妙なモノ…という印象を持たれがちです。しかし例えば、食品や水、建築物などの「安全性」をいちいち確認せずとも、多くの場合“安全”にそれらが使えるのも、教育機関や道路が利用できるのも、実のところすべて「政策」の産物なのです。本講義では、将来何らかの形で「政策」の直接の担い手となる「公務員」を目指す皆さんに、その「政策」に関する基礎的な見方・考え方、分析手法や立案手法等をご紹介します。公務員試験においていわば「政策的思考力」ひいては「政策立案力」を問われるような、上記の「到達目標」に書かせて頂いた各種の試験(その典型が国家総合職「政策論文」試験です)を突破し、かつ特にそのレベルが高度なものとなる国家総合職「官庁訪問」等においても高評価を獲得して頂くための基礎力の涵養を目指す講義展開を予定しています。

回数	コマ	講座予定
第 1 回	1・2・3 コマ	「行政」とは何か:その存在理由, その構造と機能, 行政内部及び民間部門等の他セクタとの役割分担や相互関係について 等
第 2 回	4・5・6 コマ	「政策」とは何か I (総論篇):その存在理由, その「担い手」と「手段」の諸相, いわゆる「政策プロセス」の在り方について 等
第 3 回	7・8・9 コマ	「政策」とは何か II (各論篇):近年の我が国における代表的な「政策」に係るケーススタディとその分析及び“次善の策”の検討 等
第 4 回	10・11 コマ	「政策論文」対策 I :その傾向と対策, 重要過去問研究(添付資料の読解を含む), 試験委員研究, 「予想問題」配布 等(「政策課題討議」の研究も含む)
第 5 回	12 コマ	「政策論文」対策 II :「予想問題」フォローアップ, その他の重要出題予想テーマの検討 等